



CentreCOM® AR415S リリースノート

この度は、CentreCOM AR415S をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、取扱説明書（613-000666 Rev.B）とコマンドリファレンス（613-000667 Rev.D）の補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 2.9.2-01

2 本バージョンで追加された機能

ファームウェアバージョン 2.9.2-00 から 2.9.2-01 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。

2.1 Suppress ARP Flush 機能

参照 「コマンドリファレンス」 / 「PPP」

通常動作時は、IP インターフェースがリンクアップする際、ARP テーブルのエントリーを消去しますが、この機能によって、指定した PPP インターフェースがリンクアップする際に ARP テーブルのエントリーを消去しないようにすることができます。

本機能の有効 / 無効の設定は、ADD IP INTERFACE コマンドの FLUSHARP パラメーターで行います。

コマンド

```
ADD IP INTERFACE=interface IPADDRESS={ipadd|DHCP} [FLUSHARP={ON|OFF}]
```

```
SET IP INTERFACE=interface IPADDRESS={ipadd|DHCP} [FLUSHARP={ON|OFF}]
```

パラメーター

FLUSHARP: ARP エントリーの消去を行うかどうか。ON（行う）、OFF（行わない）から選択する。OFF にした場合、IP インターフェースがリンクアップしても ARP エントリーは消去されない。デフォルトは ON。

備考・注意事項

本機能が有効なのは PPP インターフェースのみです。Ethernet インターフェースや VLAN インターフェースなどではエラーとなります。また、PPPoE インターフェースでは本機能は動作しません。

本機能の設定状態は、SHOW IP INTERFACE コマンドで確認できます。

2.2 Dynamic DNS 定期アップデート機能

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」

ダイナミック DNS サービス (<http://www.dyndns.com/>) で使用しているアカウント情報の定期更新（定期アップデート）が可能になりました。

- SET DDNS コマンドに PERIODICUPDATE パラメーターが追加されました。

コマンド

```
SET DDNS [SERVER=server] [PORT=port] [USER=userid]
[PASSWORD=password] [DYNAMICHOST=hostnames]
[PRIMARYINTERFACE=ipinterface] [SECONDARYINTERFACE=ipinterface]
[WILDCARD={YES|NO|ON|OFF}]
[OFFLINE={YES|NO|ON|OFF}]
[PERIODICUPDATE={1..60|ON|OFF}]
```

パラメーター

PERIODICUPDATE: 定期更新の周期を 1 日単位で任意に指定する。OFF にした場合、定期更新を行わない。デフォルトは ON (28 日周期で定期更新を行う)。

- SHOW DDNS コマンドの表示内容に、Periodic Update と Elapsed days の項目が追加されました。


Periodic Update: 設定されている定期更新の周期 (単位: 日)。

Elapsed days: 最後に更新が行われてからの経過日数。

3 本バージョンで仕様変更された機能

ファームウェアバージョン 2.9.2-00 から 2.9.2-01 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が仕様変更されました。

3.1 Ethernet インターフェースへ VLAN タグの付与

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「インターフェース」](#) / [「Ethernet インターフェース」](#)

Eth0、または Eth1 インターフェースに VLAN タグを付与できるようになりました。

コマンド

```
ADD IP INTERFACE=interface IPADDRESS={ipadd|dhcp}
VLANTAG={1..4094|none} [VLANPRIORITY={0..7|none}]
SET IP INTERFACE=interface VLANTAG={1..4094|none}
[VLANPRIORITY={0..7|none}]
```

パラメーター


VLANTAG: VLAN ID (VID)。

VLANPRIORITY: 802.1p ユーザープライオリティー (0 ~ 7) 値。デフォルトは 0。

備考・注意事項

- ・ VLANTAG パラメーターでタグが付与された場合、VLANPRIORITY パラメーターのデフォルトは 0 です。
- ・ ブリッジングとの併用はできません。
- ・ 1 つの IP インターフェースに設定できるタグは 1 つです。

3.2 VLAN インターフェース上での PPPoE クライアント設定

 「コマンドリファレンス」 / 「PPP」

VLAN インターフェースで PPPoE クライアントの設定ができるようになりました。

コマンド

```
ADD PPP=ppp-interface OVER=physical-interface
CREATE PPP=ppp-interface OVER=physical-interface
SET PPP=ppp-interface OVER=physical-interface
```

パラメーター


OVER: 物理インターフェース名。ISDN-callname (ISDN コール)、TNL-callname (L2TP コール)、TDM-groupname (TDM グループ)、ETH-servicename (Ethernet インターフェース)、VLAN-servicename (VLAN インターフェース) のいずれかを指定する。

servicename には PPPoE サービス名を 18 文字以内で指定する。" (ダブルクォーテーション) は使用できない。大文字小文字を区別する。どのサービスでもよいときは、servicename に ANY を指定する。

備考・注意事項

タグ VLAN との併用も可能です。

3.3 L2TP LNS 代理認証の有効 / 無効

 「コマンドリファレンス」 / 「L2TP」

ルーターが L2TP LNS として動作する際、LAC から提供される認証情報を元に PPP の代理認証を行うかどうか設定できるようになりました。

コマンド

```
ADD L2TP IP={ipadd|ipadd-ipadd} PPPTEMPLATE=0..31
[PROXYAUTH={OFF|ON}]
```

パラメーター

PROXYAUTH: LNS として動作する際、PPP の代理認証を行うかどうか。ON (行う)、OFF (行わない) から選択する。デフォルトは ON。

4 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン 2.9.2-00 から 2.9.2-01 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。


- 4.1 TCP 脆弱性 (JVN#943657) への対策を行いました。
- 4.2 本製品が、内部のシステムチェック処理によりレポートした際、ハンガアップすることがありましたが、これを修正しました。
- 4.3 CREATE CONFIG コマンドを実行した時、作成されるコンフィグファイルのサイズによってはエラーが発生する場合がありますが、これを修正しました。

- 4.4 ごくまれに SNMP のメモリーリークが発生することがありましたが、これを修正しました。
- 4.5 PPP ネゴシエーションにて、対向より LCP Configure-Reject パケットを受信した時に再送する LCP Configure-Request パケットを規定回数分送っていませんでしたが、これを修正しました。
- 4.6 BGP のルートマップ機能を設定している場合、ルート更新時にメモリーリークが発生することがありましたが、これを修正しました。
- 4.7 BGP 使用時、以下の BGP パケットを受信すると、不正なパケットを送出することがありましたが、これを修正しました。
 - ・ パス属性の拡張 Length 長が 1
 - ・ Length フィールドが 2 バイト
 - ・ Length 値が 255 以下
- 4.8 ファイアウォールおよびポリシーベースルーティングが設定されている場合に、ポリシーベースルーティングの対象通信であるにもかかわらず、TCP の RST/ACK パケットがポリシーと異なるインターフェースへ送出されてしまうことがありましたが、これを修正しました。
- 4.9 ファイアウォール機能において、TCP SYN アタック、DoS アタックを継続して受けた場合、例外発生ログを残さずにリポートする場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.10 ファイアウォールポリシーからアクセスリストを削除する DELETE FIREWALL POLICY LIST コマンドを実行した際、そのアクセスリストを適用しているファイアウォールルールが削除されませんでした。削除されるように修正しました。
- 4.11 DHCP レンジ内の IP アドレスをある MAC アドレスに静的に割り当てようとした際、その MAC アドレスが他の IP アドレスに既に静的に割り当てられている場合、その IP アドレスをエラーメッセージ内に表示するように変更しました。
- 4.12 ISAKMP フェーズ 1 で使用する IKE 交換モードを AGGRESSIVE モードに設定し、ピアのアドレスを FQDN で設定すると、その FQDN から ISAKMP パケットを受信しても応答しませんでした。これを修正しました。
- 4.13 インターフェース以外のセレクトター情報が重複した IPsec ポリシーが存在する際、ISAKMP ハートビート機能や DPD 機能で対向機器がリンクダウンしていると判定された場合に、ISAKMP SA のみが削除され、関連する IPsec SA が削除されないことがありましたが、これを修正しました。

5 本バージョンでの制限事項・注意事項

ファームウェアバージョン 2.9.2-01 には、以下の制限事項や注意事項があります。

5.1 認証サーバー

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」**


RADIUS サーバーを複数登録している場合、最初に登録した RADIUS サーバーに対してのみ、SET RADIUS コマンドの RETRANSMITCOUNT パラメーターが正しく動作しません。最初の RADIUS サーバーへの再送回数のみ、RETRANSMITCOUNT の指定値よりも 1 回少なくなります。本現象は 802.1X 認証を使用した場合のみ発生します。

5.2 ポート認証

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ポート認証」**

- DISABLE PORTAUTH コマンドで、PORTAUTH パラメーターに 8021X を指定すると、EAP Success パケットを送信してしまいます。
- RESET ETH コマンドによって Ethernet インターフェースを初期化しても、認証状態は初期化されません。
- 802.1X 認証済みのクライアントがログオフした場合、ログオフしたクライアントの MAC アドレスがフォワーディングデータベース (FDB) に保持されたままになります。
- ENABLE/SET PORTAUTH PORT コマンドの SERVERTIMEOUT パラメーターが正しく動作しません。これは、SET RADIUS コマンドの TIMEOUT パラメーターと RETRANSMITCOUNT パラメーターの設定が優先されているためです。SET RADIUS コマンドで $\text{TIMEOUT} \times (\text{RETRANSMITCOUNT} + 1)$ の値を SERVERTIMEOUT より大きく設定した場合は、SERVERTIMEOUT の設定が正しく機能します。

5.3 ブリッジング

 **「コマンドリファレンス」 / 「ブリッジング」**

ポート 1 がタグ付きパケットのブリッジングの対象となる VLAN に所属し、その VLAN に IP アドレスが設定されている場合、ポート 1 から VLAN の IP アドレス宛での通信をしようとすると、ルーターが ARP に応答せず、通信ができません。これはポート 1 でのみ発生し、他のポートでは発生しません。


5.4 IP/ 経路制御 (BGP-4)

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP/ 経路制御 (BGP-4)」**

BGP による経路制御とルートマップ機能をそれぞれ使用する構成で、BGP のプレフィックスにルートマップが設定されていない場合、ルートマップ機能が正常に動作しません。


- MED (MULTI-EXIT DISCRIMINATOR) 属性が設定されたプレフィックスを含む最適な経路が複数追加される場合に、設定とは異なる MED 値を通知します。
- MED 属性が設定されたプレフィックスを含む最適な経路が変更または削除される場合に、設定とは異なる MED 値を通知します。

5.5 ダイナミック DNS

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」**

- ダイナミック DNS のアップデートで、以下の 2 つのケースにおいて、アップデートは再送されません。
 - ・ 本製品からの TCP SYN パケットに対して、ダイナミック DNS サーバーからの SYN ACK パケットが返って来ない場合
 - ・ 本製品からの TCP SYN パケットに対して、ICMP Host Unreachable メッセージが返される場合
- ダイナミック DNS のアップデート (HTTP GET) に対する応答として、ダイナミック DNS (HTTP) サーバーから特定のエラーコード (404 Not Found) を受信すると、SHOW DDNS コマンドの Suggested actions の項目に HTML タグの一部が表示されることがあります。

5.6 DNS リレー


 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「DNS リレー」**

DNS リレー機能有効時、下記条件のとき、クライアントからの名前解決要求に対してクライアントが指定したアドレスとは異なるアドレスで応答します。

- 2 つ以上の VLAN が設定されており、それぞれが異なる IP ネットワークに所属している
- DNS クライアントが、DNS サーバーのアドレスとして自身が所属していない VLAN の IP アドレスを指定している

これを回避するには、自身が所属している VLAN の IP アドレスを DNS サーバーとして設定してください。

5.7 IPv6

 **「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」**


- RIPng 経路を利用して IPv6 マルチキャスト通信を行っている場合、経路が無効 (メトリック値が 16) になっても、しばらくその経路を利用して通信を行います。
- ガーベージコレクションタイマーが動作中の RIPng 経路は、新しいメトリック値を持つ経路情報を受信しても、タイマーが満了するまで経路情報を更新しません。

5.8 ファイアウォール

 **「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」**


- ファイアウォールにてリモート IP を指定せずにダブル NAT ルールを設定すると、ルーターがすべての Gratuitous ARP に対して応答してしまうため、Host にてアドレス重複を検出し、通信できないことがあります。
- ファイアウォールにて動的に IP アドレスが割り当てられるインターフェースを Public インターフェースとして設定した際、ルール NAT の GBLIP パラメーターに "0.0.0.0" を設定すると、NAT 後のソースアドレスが Public インターフェースの IP ではなく、"0.0.0.0" に変換されるためパケットを送信しません。

5.9 DHCPv6 サーバー

 **「コマンドリファレンス」 / 「DHCPv6 サーバー」**

- ADD DHCP6 POLICY コマンドで DHCPv6 サーバーの設定を変更しても、サーバーから Reconfigure メッセージが送信されません。ADD DHCP6 POLICY コマンドの実行後、さらに SET DHCP6 POLICY コマンドを実行してください。これにより、Reconfigure メッセージが送信されます。
- DHCPv6 サーバーで認証機能を使用した場合、ADD DHCP6 KEY コマンドの STRICT パラメーターが動作しません。

5.10 L2TP

 **「コマンドリファレンス」 / 「L2TP」**

ADD L2TP USER コマンドで ACTION パラメーターに dnslookup を指定し、PREFIX パラメーターは未設定とした場合、設定を保存し、再起動するとコンフィグエラーになります。これを回避するには、再起動トリガーで ADD L2TP USER コマンドを再入力してください。

6 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

取扱説明書 (613-000666 Rev.B)・コマンドリファレンス (613-000667 Rev.D) の補足事項です。

6.1 WAN ポート仕様

 **「取扱説明書」 135 ページ**

取扱説明書に記載の製品仕様について、以下のように訂正してお詫びします。

A.7 製品仕様 / ハードウェア / インターフェース / WAN ポート

【誤】 10BASE-T/100BASE-TX × 1 (オートネゴシエーション、Full Duplex/Half Duplex/10Mbps/100Mbps 手動設定、常に MDI/MDI-X 自動切替)


【正】 10BASE-T/100BASE-TX × 1 (オートネゴシエーション時 MDI/MDI-X 自動切替、Full Duplex/Half Duplex/10Mbps/100Mbps 手動設定時は MDI 固定)

6.2 リモートアクセス

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ターミナルサービス」**

ファイアウォール機能が有効なルーターに対して、Telnet 経由でマルチホーミングの設定を行うと、Telnet が切断されます。

6.3 UPnP ユニキャスト探索

 **「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」 / 「UPnP」**

UPnP 機能が有効時、本製品のユニキャストアドレスを宛先 MAC アドレスに指定された SSDP パケットに返信しません。ENABLE IP MACDISPARITY コマンドを実行することで、当該の SSDP パケットに返信できるようになります。

7 取扱説明書とコマンドリファレンスについて

最新の取扱説明書（613-000666 Rev.B）とコマンドリファレンス（613-000667 Rev.D）は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記の取扱説明書とコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちの取扱説明書、コマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

※パーツナンバー「613-000667 Rev.D」は、コマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

<http://www.allied-teleasis.co.jp/>